1997年3月10日 八幡東区春の町15-9 済生会八幡総合病院内

> **会八幡総合病院内**)。 東区春の町、福岡県済生 わやか」(事務局・八幡

> > れば入院せざるをえな

ってきた。通院出来なけ

り迎えする。透析には5

は、ボランティアの真心 た。特に喜ばれているの

っていたという北崎和子 さん(77) =小倉北区足立

いの医院にタクシーで通

以前は、自宅から約5

のこもった活動ぶり。

病院の間をマイカーで送 担当を割り当て、自宅と

局の部屋を提供してくれ

も『破格』の家賃で事務

長はうれしそうに語る。

た江頭博幸・市腎友会会

をしており、北九州の成 が、他都市に広める準備 国腎臟病協議会(東京) 景にある。この制度は全

す」。制度発足に奔走し ちがいますね。感激で の中にはすばらしい人た

時間もかかるため、行き

う人も多く、高齢化で通 だ。透析歴20年以上とい

の求めに応じ、事務局で

院に支障を来す人が目立

円機能を失い

週3回、

た全国の患者団体が共通 い。通院介護は、こうし

が変わるのが普通。 と帰りは、ボランティア

ら」といって登録した不

取り足取り親切にしてく =に感想を聞くと、「手

「朝の通勤のついでな

機械で血液の汚れを浄化に抱える問題を解決する

- 活動は徐々に定着。10 動産業の男性。「仕事が



第 号 4 TEL. FAX 672-7595 発 行 所 通院介護センター

くりを!!

さわやかボランティア
下畑

ボランティア講座受講生の募 たちと知り合った。会社員の 終了後、保健所の紹介で精神 めた。本渡保健所が精神保健 がら暮らしている精神障害者 障害者が働く共同作業所に出 応募したのがきっかけ。講座 集を行い、暇つぶしでこれに 市に住んでいた三年前から始 人りするようになった。 ここで、生活保護を受けな ボランティアは熊本県本渡

当方がまったく知らない世界 聞いた時は驚かされた。 分でなくなる発作の苦しみを と興味深かったし、自分が自 にいる人達の話を聞いている

と今度は自身の人生観が変化 ているとだんだんボランティ アと言う自覚ができた。する から「ありがとう」といわれ いたのだが、作業所の人たち 害者と一緒に内職作業をして 当方は暇なので作業所で障

気楽なボランティアで

和幸 いる。だからボランティアで

出来てきた」と自賛し喜んで の変化が楽しく「俺は人間が 柔らかになっているのだ。こ 中に乱暴な車が割り込んでも 考えが多かった私が少しずつ)。四十過ぎまで自分本位の が一」と腹を立てているけど ごみが散らかっていたりする 時がある(たいていは「アホ ったのが、拾うようになった とそれまでは見えない汚した ごみを拾うとは考えもしなか 「事故に気をつけて」と思う 犯人。に腹を立てるだけで 機嫌のよい時には車の運転 人に優しくなれるのである

んびりやろうと思っている。

して行った。

感謝したいのはこちらなのだ で、北九州に転勤して何か

打診

そのこ

ことで、「さわやか」に

どうですかと、当局から打診

り

があったものです。

えー、立派ですねえ」と感心 するが、なに、当方は暇つぶ える。そうすると相手は「へ しを兼ねている趣味をボラン 聞かれるとボランティアと答 っている。近ごろ趣味は?と 少ないのだが参加させてもら らできると活動回数は本当に か」の活動を知った。これな なものがなかった時「さわや 規則で時間に制限があり適当 したかったが会社の勤務が不

ティアと言っているだけの事 今後も肩ひじを張らずにの 話が入り、

年で、

ハンディキャブ(車椅

子が乗せられる車)の寄贈が

申し込まれ、今後の発展がま すます期待されていることを

軽自動車を二台寄付する旨、 の一環として、障害者団体に 向かえるので、その記念事業 障害福祉課に申し出があり、

障害福祉課よ

返事をしました。

現在、「さわやか」以外に

と考え、寄贈してもらうよう

院介護事業に大いに役にたつ

「さわやか」としては、通

せてきました。 椅子を乗せて走れる障害者用 の自動車の寄付があると知ら 北九州ダイハツが60周年を 北九州市障害福祉課より電 「さわやか」に車

の際に発表されるそうです。 抽選の結果、四月の記念式典 も数件の申し出があるそうで

「さわやか」発足わずか半

.

予定です。

計画など、直ちに考えてゆく お知らせすると同時に、運行 り寄贈が決定したら、皆様に

痛切に感じます。抽選に当た

研修会近づく

北九州市に全国で2番目 だろうか。実は昨年10月、

000人余、北九州市は

年々増え続けている。 約1300人。その数は

透析通院介護

問題は患者の高齢化

護制度というのをご存じ

のが透析患者。全国で15

しないと生きていけない

者自身と家族もボランテ ボランティアは44人。患 者数は現在31人。支える

えている。

週2回、走ってくれる。 シー運転手は仕事抜きで という市職員。個人タク 休みの土曜、日曜なら」

こには週3回、5時間の

神がことのほか強い。そ

透析患者は相互扶助精

とうれしそうだった。

「不安の中での出発で

風みとして始まった。

制度を利用する登録患

12月-91回 1月-8回

ーと利用者は着実に増

月-30回>11月-8回>

万人を超え、福岡県も5

数以上は一般市民。 ィア登録しているが、半

透析に週3日通う患者

成。済生会八幡総合病院

年間215万円の運営費

こうした活動に、市は

と月3万円の家賃を助

たちは非常に献身的。世 したがボランティアの方

という、厳しい現実が背

しなければ命を保てない 透析を受け、食事制限を

血液透析患者の通院介

設置され、患者に喜ばれ ンティアの支援を受けて の介護センターが、ボラ

ているので紹介したい。

・通院介護センター一さ 名称は北九州市腎友会

れてもったいないです」、い。・・【大學 呼びかけている。連絡は 輪が広がることを祈りた 事務局(093・672 ・7595)へ。活動の ンティアと思者の登録を 功の意義は大きい。 介護センターは、ボラ ますが、特別用事のある人を 意思表示をされています。 除いて、大部分の方が参加の す。現在、参加者を募ってい ランティア研修交流会がきま 今回、講師をされる栗本さ あと一ヵ月で、第2回のボ

> 皆さんに話をすると張り切っ ておられます。 んも 既に教科書を作成され

っくり楽しみ、明日へのエネ 桜の花が満開の日田路をゆ を蓄えましょう。

北九州版より

毎日新聞 三月二日朝刊